



2025年度
第1号

体育市民連帯 ニュースレター

大韓民国スポーツの

根本的变化を

皆さんと共に

作って行きたいです

体育市民連帯と共に

していただけませんか？

「反李ギフン」
群雄割拠・・・
大韓体育会長選挙
観戦ポイント



「2036 五輪誘致」
「スポーツ公正委改善」・・・
「体育大統領」
を狙う6人



大韓体育会長
候補者政策討論会
6人の候補
核心発言を整理



朴チャンボム選対委員長
体育会長は
清廉な人に
ならなければ



町内体育センターの
1秒カット
申し込み締切



*

01 日曜新聞 2025.01.02

「反李ギフン」群雄割拠…「体育大統領」大韓体育会長選挙観戦ポイント



第42代大韓体育会長選挙戦が本格的に幕を上げた。今回の選挙は、候補6人が競争する構図で行われる。2024年、体育界の論難の中心に立ってきた李ギフン大韓体育会長の3選成功可否が最大の関心事だ。選挙情勢を巡る「霧の中の局面」が続く中で、大韓体育会長選挙特有の「選挙方式」が変数として浮上した。

李ギフン大韓体育会長は2024年末まで3選挑戦と関連して沈黙を続けてきた。2024年11月12日、大韓体育会スポーツ公正委員会が李会長3選再任案を議決する時まで、李会長は特別な立場を見せなかった。12月23日、李会長は3期目への挑戦意志を本格的に示した。

彼は「文化体育観光部、検察、警察、国会、国務調整室、監査院などほぼすべての国家権力機関が大韓体育会の調査に乗り出した」とし「ここで退けば全方位圧迫に屈し、すべてを認めるよう(3選挑戦に)乗り出すことにした」と明らかにした。出馬宣言だった。

体育界の内外では、予定された手順による出馬という評価が出ている。体育界のある関係者は「李会長の3選挑戦は必然的なシナリオだった」とし「非常戒厳事態以後、李会長が狙った『対政府投射』名分が浮上できるタイミングまで整えられた」と話した。この関係者は「李ギフン対反李ギフンの構図がかなり複雑に組み込まれた状態で選挙戦が始まった」と話した。

李会長の3選を阻止するため、大韓体育会長選挙に出馬した候補は計5人だ。キム・ヨンジュ前江原道体育会事務処長、柳スンミン前大韓卓球協会会長、カン・テソンソウル市体育会長、オ・ジュヨン前大韓セパタクロー協会会長、カン・シンウク檀国大名譽教授が「反イ・ギフン戦線」で各自旗を持ち上げた。

2021年に行われた第41代大韓体育会長選挙は4者構図で行われた経緯がある。「反李ギフン一本化」が失敗に終わり、李ギフン大韓体育会長再選に反対する票が分散した。李会長は46.4%の得票率で再選に成功した。李ジョンゴル元民主党院内代表、柳ジュンサン元セヌリ党常任顧問ら政界関係者が出馬を表明したが、それぞれ3位と4位にとどまり、苦杯をなめた。2位は25.7%の得票率を記録したカン・シンウク檀国大学名誉教授だった。

第42代大韓体育会長選挙でも「反李起興戦線」は単一隊伍を整えることに失敗した。一本化の努力があったことはあった。2度にわたって一本化推進会合が行われた。12月17日に結成された第1回会合には、姜シンウク檀国大学名誉教授、柳スンミン元大韓卓球協会会長、安サンス元仁川市長、朴チャンボム元大韓ウシュ協会会長が集まった。

12月22日には2回目の会合があった。この日の会合には柳スンミン前会長が抜けて、カン・テソンソウル市体育会長が参加した。2度にわたる一本化会合は、何の結果も見出せなかった。安サンス前仁川市長は、一本化を求めて候補登録をしなかった。柳スンミン前会長、姜テソンソウル市体育会長は、各個戦闘の意志を表明した。

檀国大学の姜シンウク名誉教授と大韓郵趣協会の朴チャンボム前会長の間だけで一本化が実現した。檀国大学のカン・シンウク名誉教授が候補登録を終え、パク・チャンボム前会長はカン・シンウクキャンプ選対委員長を引き受けることになった。いわゆる「スモールテント」の一本化だ。

前回の選挙より多くの候補が出師の表を投げ、「反李ギフン戦線」の結集力に対する疑問符がついている状況だ。6者構図の状況は、3期連続再選に挑戦する李ギフン会長と「反李ギフン走者」5人の対決に圧縮された。反李ギフン戦線では3人が有力候補、2人がダークホースに挙げられる。

有力候補として取り上げられている3人は、柳スンミン、カン・テソン、カン・シンウク候補だ。金ヨンジュ、呉ジュヨン候補は「ダークホース」に分類されているという。有名卓球選手出身の柳スンミン候補は「若い覇気」を前面に出しており、企業家のカン・テソン候補は「老練さ」を掲げ、支持層結集に総力を傾けている。カン・シンウク候補は選挙経験と「スモールテント」一本化を通じた名分確保を基盤に終盤スパートに出る展望だ。

ある体育団体関係者は「柳スンミン候補は卓球金メダリスト出身で大衆的な認知度と拡張性の面で最も高い点数を受けている」とし「垂直的な文化が蔓延した体育界で『若い血』である柳スンミン候補がどれほど有権者を結集させることができるかがカギ」と話した。

この関係者は「カン・テソン候補の場合、現職地方自治体体育会長としてソウルを基盤にした得票力が強み」とし「全国単位選挙でどれだけ勢力を結集できるかが観戦ポイント」と見通した。彼は「カン・シンウク候補の場合、選挙経歴者として全国各地のネットワークを細かくよく固めておいたという評価を受けている」とし「ただし大衆的な認知度が低いという側面が弱点として作用する恐れがある」と分析した。

また別の地方自治体体育会関係者は「李ギフン大韓体育会長を巡る各種論難で2024年が騒がしくなかったか」とし「職務停止状態である李ギフン会長が各種イシューを乗り越えてどれだけ支持勢を死守するかが選挙の行方を左右するだろう」と見通した。この関係者は「非首都圏、一部種目団体に李会長に対する非土気流が高まる可能性が議論されている」としながらも「現職者であるためにプレミアムを持っているのも事実」と観測した。

変数は大韓体育会長の選挙方式が挙げられる。大韓体育会長選挙は2300人余りの選挙人団投票で行われる。実際に投票権を行使する選挙人団の心を得る候補が「体育大統領」と呼ばれる大韓体育会長に就任できる。ある種目団体関係者は「今回の選挙は『反イ・ギフン戦線』で選挙人団投票の脈をよく把握した候補がイ・ギフン会長と票対決を繰り広げる様相で展開されるだろう」と展望した。

この関係者は「選挙人団投票の様相は外から眺めるのとは全く異なり進行することがあるので、ふたを開けてこそ誰の支持勢が強いかが分かるだろう」とし「今回の選挙は色々な変数が複合的に作用している歴代級の『暗闇選挙』」と話した。彼は「李ギフン会長が色々なリスクを抱いて3選に挑戦したので、選挙自体がはるかに熾烈だろう」とし「一票一票が途方もない波及力を持つと見る」と話した。

投票率も重要な変数だ。今回の大韓体育会長選挙は1月14日、オリンピック公園のオリンピックホールで開催される。全国の投票所はここ一つだ。投票時間としては2時間30分程度が与えられる計画だ。非首都圏自治体体育会の一部では「普遍的投票権が保障されない」という指摘も出ている。地方選挙人団や試合スケジュールが真っ最中の冬季種目関連選挙人団は投票参加が制限される可能性があるためだ。このような要素は、大韓体育会長選挙の核心変数として浮上している。

体育市民連帯の金ヒョンス執行委員長は、「6者構図で行われる今回の選挙では、30%の得票率を先取りする候補が勝利する可能性が高い」と分析した。金委員長は「李ギフン会長が得票率30%を死守できるか

が最初の観戦ポイント」として「『反イ・ギフン戦線』で30%得票率を得る候補が現れるならば選挙の形勢が動揺するだろう」と見通した。

出典：https://www.ilyo.co.kr/?ac=article_view&entry_id=484929

02 ハンギョレ 2025.01.04

「2036 五輪誘致」「スポーツ公正委改善」…「体育大統領」を狙う6人



年間補助金約4200億ウォンを動かす体育大統領が14日、大韓体育会長選挙を通じて選出される。歴代最多の6人の候補(李ギフン、キム・ヨンジュ、柳スミン、カン・テソン、オ・ジュヨン、カン・シンウク)が出師の表を投げたが、李イ・ギフン現大韓体育会長の3選の可能性に体育界の注目が集まっている。一部の候補を中心に一本化が議論されたが、失敗に終わり、すべての候補が選挙を完走する可能性が高くなった。

新しく選出される大韓体育会長は任期4年間、1兆ウォンを越える補助金を使い、専門運動選手はもちろん、生活体育を楽しむ国民に莫大な影響力を及ぼす。これに対しハンギョレと体育市民連帯は候補6人に公開質疑書を送り各候補の政策力量を比較・分析することにした。△国際スポーツ競争力△体育行政△財政健全化△学校体育△生活体育など計5分野で賛成と反対が分かれる質問項目を中心に候補たちの立場を選んだ。

多数候補、会長続投審査スポーツ公正委「改善すべき」

李ギフン会長は昨年、文化体育観光部(文体部)とことごとく対立した。文体部は体育会の各種事業を巡り補助金使用の透明性を要求したが、李会長は体育界自律権を強調し両側の立場は平行線をたどった。そうした中、国務調整室の政府公職服務点検団が昨年11月、調査を通じて一部職員の不正採用、金品授受の疑いで李会長を警察に捜査依頼した。文体部は直ちに李会長を職務停止した。

3選挑戦を控えた李会長にとって、これは致命打となったが、体育会スポーツ公正委員会(スポーツ公正委)は昨年11月12日、全体会議を開き、李会長の3選挑戦資格を承認した。警察、検察、監査院など査定機関から集中調査と捜査を受ける候補が3選挑戦を継続できるようになると、体育界ではスポーツ公正取引委員会の独立性を保障しなければならないという声が出てきた。

候補6人のうち4人(金ヨンジュ、柳スミン、姜泰善、姜シンウク)は、「現スポーツ公正委が会長再任審議をこれ以上引き受けてはならない」と述べた。キム・ヨンジュ候補は「スポーツ公正取引委員会の構成員を縮小し、大韓体育会長の場合、3連任制自体を禁止し審議対象案件になれないよう制度化を推進する」と答えた。カン・シンウク候補は「委員会の独立性を強化するために会長の委員推薦を制限し委員の任期を保障しなければならない」と書いた。

一方、李ギフン候補は、「現制度が適切だ」と評価した。彼は「スポーツ公正委員会は独立的で公正な審議手続きを通じて自律性を保障されている」として「委員会構成も文体部協議を通じるので(スポーツ公正委が)会長の影響力下にあるという主張は杞憂に過ぎない」と主張した。オ・ジュヨン候補はスポーツ公正取引委員会の再任審議機能を維持する代わりに「利害出動防止のために会長と利害関係がある委員の参加を制限し任期を分離し兼職を禁止しなければならない」という立場を出した。

候補5人「文化体育観光部の種目団体予算直接交付反対」

昨年7月、文体部は大韓体育会を通じて支給される種目および地方体育会の予算を直接交付するという方針を明らかにした。エリートスポーツ危機を克服し、各体育団体の自律性を強化するという趣旨だったが、体育会は文体部が越権を行使していると反発した。国民体育振興法が体育会の「競技団体事業と活動支援の役割」を保障しているが、文体部の措置がこれに配置されるということだ。

オ・ジュヨン候補を除いた5人の候補いずれも体育会の専門性と独立性を強調し、文体部の直接交付方式に反対した。柳スンミン候補は「文体部は体育専門組織ではない。予算を受ける組織は執行機関の好みに合う行政を推進することになるだろう」と憂慮を表明した。キム・ヨンジュ候補は「組織と体系の破壊で体育界の混乱極大化を量産する問題が発生するだろう」と強く批判した。

一方、オ・ジュヨン候補は種目団体の自律性と独立性に言及し、賛成の意思を明らかにした。彼は「種目団体が文体部から直接予算を受け取ることになれば、自律的予算運営と責任が強化され、大韓体育会の過度な統制から抜け出し独立的な運営が可能になる」として「それだけでなく、これを通じて大韓体育会長に向けた種目団体長の過度な列も一定部分解消される」と見通した。

授業欠損よりは訓練が先に…声を一つにして

学生選手が大会または訓練のために正規授業を履修できない時は欠席しても出席と認定してくれる。ただし、一定範囲(初等学校20日、中学校35日、高等学校50日)内でのみ出席として認められる。

これをめぐって体育現場と教育現場の認識の差は大きい。現在のエリート運動選手育成システムで当面の成績が重要な体育指導者の立場では出席認定許容日数を大幅に増やさなければならないという立場だ。反面、教育界と市民団体は休日と早退など分割ですでに実授業日数の3分の1まで欠席する状況を考慮すれば、これ以上の拡大は事実上授業欠損を放置することだと主張する。

五輪金メダリストの柳スンミン候補を含め、6人とも出席認定許容日数制度にメスを入れ、練習時間を増やすべきだということで意見が一致した。柳候補は「出席認定許容日数自体が選手の人権侵害だ。学生選手は「学生」よりは「選手」に集中しなければならない状況が多い。現教育部規定にはこのような状況が反映されていない」と指摘した。

この他に「学生選手の試合や訓練参加など経験の蓄積が必要だ」(キム・ヨンジュ)、「出席認定許容日数拡大と共に学業空白を減らすための代替学習支援策を併行しなければならない」(オ・ジュヨン)、「学生選手の進路選択権を保障できるように十分な運動条件提供方案を検討しなければならない」(カン・テソン)など制度改善を注文する意見を出した。

2036 ソウル五輪招致の意志…南北交流は意見に分かれ

6人の候補はいずれも2036ソウル五輪の招致に乗り出す意思がある」と明らかにした。ただ、五輪を通じて得ようとする事については、別の意見を出した。

李ギフン候補と金ヨンジュ候補は、「国家の地位向上のために五輪誘致が必要だ」と答えた。李候補は「2036ソウル五輪誘致は現在、様々な困難に直面している大韓民国に新しい成長動力を提供することができ、国民統合と国際的地位向上に肯定的な影響を及ぼすものと期待している」と答えた。

柳スンミン、カン・テソン、オ・ジュヨン候補は、「国内の体育インフラを改善するきっかけとして、五輪を活用しなければならない」と答えた。姜テソン候補は、「2036夏季五輪の誘致で足りない専門体育インフラの構築と余剰金の確保ができる。これはまもなく体育会の財政確保につながる可能性があり、オリンピック誘致が必要だ」と強調した。オ・ジュヨン候補もやはり「既存の体育施設を活用して費用節減と環

境的持続可能性を確保することができる。 これを通じて環境にやさしい持続可能なオリンピックモデルを提示することができる」と答えた。

南北体育交流を推進するかどうかを問う質問には、世代別に回答が分かれた。 李ギフン (69)、金ヨンジュ (63)、姜テソン (75)、姜シンウク (68) ら 60 代以上の候補は賛成の意思を明らかにした。 核心種目としてはサッカー、卓球、テコンドー、バスケットボールなどを挙げた。 一方、柳スンミン (42)、オ・ジュヨン (39) ら 30~40 代候補は反対の立場を表明した。 柳候補は「不確実な要素が多い現在の状況で、一方的な交流で韓国選手に被害が及ぶことを考慮しなければならない。 大きな枠組みで交流は賛成するが、下手に交流を推進することには反対する」と慎重な立場を示した。 オ・ジュヨン候補もやはり「費用問題と実質的な効果、国民的共感が不足している」と答えた。

公開質疑書を見たキム・ヒョンス体育市民連帯執行委員長は「票を集めるのに邪魔になるのではないかと憂慮したのか、一部論争になる質疑に対しては大勢だけに従ったり一般論的な返事をする場合が多くて残念だった」としながらも「体育会長は大韓民国体育全般に責任を負う席だ。 厳しい状況に置かれても、発表した公約と発言に責任を持つ姿を期待する」と述べた。

出典：https://www.hani.co.kr/arti/sports/sports_general/1176286.html

03 スポーツ京郷 2025. 01. 04

大韓体育会長候補者政策討論会 6 人の候補、核心発言を整理



第 42 代大韓体育会長選挙候補者政策討論会が 4 日開かれた。 候補 6 人は体育界の現実に状況認識、主要公約などについて発言した。 李ギフン大韓体育会長、金ヨンジュ元江原道体育会事務処長、柳スンミン元大韓卓球協会会長兼国際オリンピック委員会 (IOC) 委員、姜テソン現ソウル市体育会長、呉ジュヨン元大韓セパタクロー協会会長、姜シンウク檀国大学名誉教授ら 6 人が出席した。 発言は記号の順にまとめた。

■「国家スポーツ委員会設立」李ギフン:完全な自治を実現するためには、12 の省庁などに散在している政策を国家スポーツ委員会を設立し、ワンシステムで施行しなければならない。 2016 年の大韓体育会の予算が 2000 億ウォンだったが、今は 5000 億ウォンに迫る。 2800 人の契約職指導者を正社員に転換した。 体育会の予算が増えても現場が厳しいのは、政府の干渉のためだ。 今も政府が地方自治体に基金を直接交付しようとしているが、精算問題で再び体育会に戻ってくるだろう。 独立 (Independence)、最適化 (Optimization)、協力 (Collaboration) を国家スポーツ委員会を通じて引き出す。



■「体育庁設立、体育庁設立」金ヨンジュ:体育人共済会、補助金法改正、地方体育会予算安定的確保、会長業務推進費確保、体育団体職員拡充、教育税を体育予算に還元などは体育庁設立を通じてしなければならない。 体育庁の設立が官治を強化する可能性もあるという指摘もあるが、行政と財政は体育庁が行い、実務は体育会が行えばよい。 今は構造的な問題、行政的限界を越える時だ。 体育界の革新の先頭に立つ。



■「体育会予算増大にオールイン」柳スミン:公約7つを達成するためには予算確保が切実だ。Kス



スポーツコンテンツで収益モデルを作る。国際オリンピック委員会（IOC）がオリンピックで金を稼ぐように、体育会も全国体育大会などで金を稼がなければならない。選手村など体育会の資産を活用して収益事業を拡大する。私が卓球協会長時代、100億ウォンを超えるスポンサーを誘致した。すべての卓球人が一緒にしたのだ。エージェントが後援会社を誘致すれば手数料を15~20%を払わなければならない。協会役員に後援欲求を督促したことが問題になるなら、私が責任を負う。私は体育に借りが多い。借金を返す時だ。「35年間経験したことをすべて吐き出す。

■「経営人が体育会長を引き受ける時」カン・テソン:体育人共済会を設立することに集中する。ソウル



市管内の区体育会の中にも指導者賃金制を号俸制に切り替えたところがある。「新年25区すべてが号俸制に変わるよう努力する。仕事は職員がすることだ。会長が働けば独善になる。会長は戦略を練って後押しすればいい。経営人として体育会の自立基盤づくりに努める。権力の代わりにリーダーシップ、私欲の代わりに奉仕精神が必要な時だ。4年を8年のように働き、体育会を2倍に育てる」組織を運営して成功した経験を前面に出して、体育会を最高のサービス組織にする。

■「指導者、選手投票権の拡大が体育改革の第一歩」オ・ジュヨン:牽制を受けない権力は怪物になる。



大韓体育会代議員総会の挙手表決、スポーツ公正委員会の構成に及ぼす会長の影響力から消えなければならない。大韓体育会の積弊清算が最高公約だ。指導者の処遇改善と生計保障は、選挙権を拡大すれば自然に解決できる。「私が会長になれば、現在2300人の大韓体育会選挙人団を2万3000人に増やし、全国17の広域自治体に投票所を設置する。私は体育人でもないし、体育を仕事にしない。体育に借りがなく、危機から体育を救う適任者だと思う。本当に改革をする。

■「学校体育活動、大学入試加算点反映」カン・シンウク:国民体育振興法を改正し、地方体育会が地方



自治体から予算を独立的に確保することで政治的に独立するようにする。劣悪な学校運動部の支援、上場企業の運動部創立の義務化、学校体育の活性化なども全て学校体育活動を大学入試に反映すれば解決される。最低学力制、運動部出席認定日数縮小などイシューは趣旨には共感するが、現場の声を見逃してはならない。現場で準備が不十分で苦痛なら、廃止されるべきだ。人は直して使えない。生きてきた道がこれから生きていく道だ。体育会のすべての会議録、公募事業の結果などを公開することで、会長の専横がなくなるようにする。

出典：<https://sports.khan.co.kr/article/202501041641003?pt=nv>

04 ニューシス 2025.01.05

朴チャンボム選対委員長 「体育会長は清廉な人にならなければ」



姜シンウク（檀国大名誉教授）第42代大韓体育会長候補の常任選挙対策委員長である朴チャンボム（56）前大韓ウシュ協会会長は5日、「混沌に陥った韓国体育をこれ以上見守ることができず、姜候補を支持することになった」と述べた。

大韓体育会長に挑戦した朴選対委員長は、姜候補との一本化のため、最近出馬をあきらめた。

彼はこの日、大邱寿城区のあるコーヒーショップで記者懇談会を通じて「体育会長は清廉、道徳性、公正な人にならなければならない」としてこのように明らかにした。

彼は「私も最後まで体育会長に出たかった。しかし、李ギフン現会長が再びなってはならないという気持ちが大きかったため、何とか一本化しなければならないと考えた。これに断食までした私の立場で率先垂範して譲歩し犠牲とならなければならないというのが率直な私の考えだった。そのため、その中で候補で最も良い候補が「カン・シンウク候補」だったと説明した。

次は朴チャンボム常任選挙対策委員長との一問一答。

---清廉道徳的、公正さを強調している

「私が姜シンウク候補に電撃単一化した理由は、今の李ギフン現会長と比較した時、すべての面で優れているという判断からだ。李会長が大韓体育会長を歴任し、権力私有化、不正、不公正などが問題になった。この問題を解消するためには、清廉で道徳的で公正な方を首長としてお迎えしなければならない。道徳性が先決条件であり、基本である。基本を備えてこそ、その後の体育政策を考える価値がある。先決条件で脱落した方は、どのような政策を打ち出しても、大韓体育会を率いるリーダーにはふさわしくない。その観点から見ると、私は「姜シンウク候補」を支持するのが正しいと判断した。

----姜シンウク候補はどんな人か。

「姜候補は第41代大韓体育会長選挙に出馬し、2位という成績表を収めた。選挙当時、新型コロナウイルス感染症の流行が激しかったため、選挙運動が十分にできず、人柄ほどの得票は得られなかったと思う。41代会長選挙で落選後も体育関係者に会い、現場の意見を聞いたという。直接全国を歩き回りながら地域に対する懸案と現場の隘路事項などを目で見、耳を開いて聞いた。それで体育に対する懸案を一番よく知っている。準備できた方だと思っていたが、4年間準備した裏話に接して頭を下げた。結局、この方が私よりましだという判断から、すべてを手放し、姜候補を支持することで候補一本化をした。

---体育界が進むべき方向について一言。

「多くの候補が財政的な支援にだけ没頭する。事実、財政支援も重要だが、体育の核心キーワードは公正だ。アーチェリー協会がその例だ。アーチェリー協会長の鄭ウィソン会長は、財政支援だけで「大韓民国アーチェリー神話」を作らなかった。神話の根底には公正さがあった。アーチェリー協会の国家代表選抜は公正さそのものだ。学縁、地縁、派閥は存在しない。名声よりも実力を一つだけ見る。全国1500人のうち、ランキング100位内に入っただけでこそ、国家代表選抜戦ができる。100人の選手が10回の大会を通じて激しく競争する。最後の瞬間まで公正かつ熾烈に試合で評価する。すべての国民がアーチェリー国家代表に有名スターが選抜されなくても、アーチェリー国家代表に選抜された選手は当然優秀だと期待する理由だ。道徳的で清廉で公正な候補が体育会長にならなければならないと主張する理由とも通じる」

---最後に「姜シンウク候補」キャンプ常任選対委員長として一言。

「最後まで候補一本化のために努力し、自分を手放す瞬間までも最善を尽くした。姜候補と候補一本化して支持することで私の役割が終わったと思ったが、姜候補がワンチームで選挙に勝つまで助けてほしい」と提案した。最後まで一緒にしようという提案に苦心し、道徳的で準備された姜シンウク候補の提案を受け入れた。私は姜候補の当選のためにすべての力量を集中する。選挙の最終日まで他の候補との一本化ができるように努力する」すべての候補と力を合わせて大韓体育会に新しい指導者の名前を載せる」

出典：https://www.newsis.com/view/NISX20250105_0003021284

05 ハンギョン日報 2025.01.03

町内体育センターの1秒カット申し込み締切



運動しろとみんな簡単に言うが、いざ簡単なことではない。町の体育センターに入ることから、途方もない競争率を突破しなければならない。家の近くに区役所が建てた文化体育センターがある。ここは毎月25日になると、新規登録を希望する人でごった返す。オンライン申請は「1秒カット」で締め切られる。現場受付待機列は明け方2〜3時からできる。良い体育施設を安価で利用できるからだ。

「申請を容易にしてほしい」という苦情が殺到すると、同センターが出した処方箋は「利用制限」だった。まず、区民以外の住民は後回しにし、事実上区民だけが申請を受け入れた。それでも苦情が絶えないため、今回は1年以後の再登録を阻止した。長年センターを利用した「古人物」を追い出すための措置だった。さらに、今年からは一部の授業に限って、1人当たり2つ以上の講座を受講できないようにした。月・水・金曜日の水泳プログラムを聞けば、火・木曜日のプログラムは受講できないようにするやり方だ。

もちろん、このような処方箋は根本的な解決策ではない。運動しようとする人は多いが、運動できる場所は足りないのだから、施設をこれ以上増やさずには方法がない。しかし、体育センターの設立は遠いことであり、苦情は目の前のことだ。仕事を処理する人の立場が理解できないわけではない。それでも残念なのは根本的な解決策が今後の計画にもないという点だ。年末に歩道ブロックを敷く予算はあっても、苦情が殺到する体育センター拡張予算は確保されていない。これは単に私たちの町だけの問題ではなく、似たようなことがあちこちで発生している。税金と予算を体育センターにまず投入しなければならないという社会的共感が不足したり、予算を担当する政治家と公務員の関心が不足しているのが主な理由と見られる。しかし、体育センターを拡充することは、些細なことや後回しにされることではない。国民の需要が多いだけでなく、社会難題のような健康保険財政問題を解決する糸口を提供することができる。

韓国は健康保険料として年間約100兆ウォンを集めて使う。これまでは大体出て行くお金より入ってくるお金が多かった。しかし、近いうちに出費が増えるのは明らかだ。低出生・高齢化でお金を払う人は減り、保険の恩恵を受ける人は大きく増えているためだ。これを解決するための解決策は大きく二つだ。お金をもっと集めたり、出て行くお金を減らすことだ。今もあまりにも多く払ったからといって、騒々しい国民にお金をもっと払えと言うのは難しいだろうから、少なく使う方法を講じるのがより現実的な代案だ。体育センターの拡大は健康保険料を少なく使うのに力を与える。体育センターを町ごとにもっと建て、より多くの人々が安く利用できるなら、国全体の医療費支出が減少する可能性が高い。

国民の健康増進に運動が大きな役割を果たすという証拠は溢れている。韓国スポーツ政策科学院が2013～2017年の5年間、「国民体力100」の参加者を追跡観察した結果、このプログラムの参加者は非参加者より年間40万ウォンほど医療費を少なかったことが分かった。国民体力100は、国民体育振興公団が主管する対国民体育福祉サービスだ。単純計算で100万人が参加すれば、年間約4000億ウォンの医療費減少効果がある。政府が予測した来年の健康保険収支の赤字規模3072億ウォンを相殺しても余る。

老人は週1回以上、30分間歩くだけでも医療費支出を年12万5000ウォン減らすことができるという研究結果もある。少しだけ運動しても効果が大きく、運動による「コスパ」は老人が若い人よりはるかに高いと見られる。高齢者に病院に行かないようにと顔を伺わせる代わりに、運動できる環境を整えるのが社会的に得だという話だ。実際、町内の体育センターで接した数多くの老人は「健康美」を誇って家の前で運動できるということに感謝した。真冬にもノースリーブ姿でジムに通うなど、彼らは私たちがよく知っている老人の範疇から大きく外れていた。定期的に運動する高齢者が多くなるほど、老化による病気や障害時間が短縮され、医療費の減少につながるという報告が最近、医学界に相次いでいる。これに加えて、運動は老年の自己満足感を高め、人同士の交流を活性化して孤独感を減らすなど、心理的側面でも効果が大きい。

最近では真冬なのに、公園に行くと、群れをなして走る人だらけだ。彼らのために不便だという人もいるが、このように走る人が多ければ多いほど、運動する人が増えれば増えるほど、社会にははるかに得になる。新年に運動を決心した人なら誰でも家の近くで簡単に運動できることを願う

「区役所の体育センターに人が集まろう」

アン・ジェグァン流通産業部次長

出典：<https://www.hankyung.com/article/2025010349151>

06 週間スポーツニュース

体育施設・庁舎新築など地域事業、自治体が直接審査

<https://www.yna.co.kr/view/AKR20250106050800530?input=1195m>

梁山市、公共体育施設統合予約システム改善

https://www.newsis.com/view/NISX20250106_0003021791

国民体育振興公団、2025年スポーツ産業金融支援を本格的に推進

http://mbn.mk.co.kr/pages/news/newsView.php?category=mbn00011&news_seq_no=5085867

大田体育の有望株、冬季訓練でさらに高く飛ぶ

<https://www.ccdailynews.com/news/articleView.html?idxno=2318318>

全国幼少年生活体育バスケットボール大会ファンファーレ「小学校600人集結」

https://www.nocutnews.co.kr/news/6272778?utm_source=naver&utm_medium=article&utm_campaign=20250106025607

大韓体育会、全羅北道で 2036 夏季五輪の実態調査…キム・グァンヨン知事 直接 PPT

<https://www.yna.co.kr/view/AKR20250106117000055?input=1195m>

体育会長候補者政策討論会「反李ギフン」予想外の差分

<http://www.kado.net/news/articleView.html?idxno=1286747>

国際幼少年サッカー大会、済州で開幕…15日まで実施

<https://www.yna.co.kr/view/AKR20250106086700056?input=1195m>

東海市、冬休み青少年体育活動プログラム推進

<https://www.newspim.com/news/view/20250106000419>

体育市民連帯オンライン 定期後援案内

万人が楽しむスポーツ世界、体育市民連帯が共に作ります。
私達連帯の活動に積極的に賛同していただくことを願います。

私たち体育市民連帯は体育人の権益保護と
福祉実現のために努力しています。
皆さんの小さな心づかいがより良い世界のための
体育市民連帯活動に強固な土台となります。
体育市民連帯会員として力になろうと
される方は下の口座に後援お願いします。

国民銀行 086601-04-095940

口座名義：体育市民連帯

オンライン定期後援は下のリンクを通じてホームページからできます。

多くの関心をお願いします。

体育市民連帯 ソウル市 瑞草区 瑞草洞 孝寧路 230 スンジョンビル 407 号

Tel : 02-2279-8999、E-mail : sports-cm@hanmail.net ホームページ : <http://www.sportscm.org/>

日本語訳 : 佐藤好行 新日本スポーツ連盟 国際活動局 韓国担当 jr1fep@gmail.com

週刊ニュースレターバックナンバー (資料室) <http://www.yg.jpn.org/sportscm/index.html>